

動詞 be を使った文章

動詞編の中に am, is, are 「ある、いる、です」とありましたね。
この am, is, are を **be動詞** といいます。

日本語での使われ方は・・・

・現在形 「ある、いる、です」

ペンは机の上にある。今日はパーティがある。
彼は大阪にいる。宇宙人はいる。
私は10才です。冬です。5時です。
もう小学生です。(=もう小学生になります。)

・過去形 「あった、いた、でした」

ペンは机の上にあった。今日はパーティがあった。
彼は大阪にいた。宇宙人はいた。
私は10才でした。冬でした。5時でした。
もう小学生でした。(=もう小学生になりました。)

be動詞の活用形

	原形	現在形	過去形	過去分詞形
※過去分詞形はまた後で説明します。	be	am	was	been
		is		
		are	were	

現在形が am, is, are と3つに分かれているのは？

am 以外は、前にくる言葉が単数か複数かでペアが決まっているからです。

be動詞	be動詞の前になる言葉
am	I (私、ぼく)
is	he, she, Tom, it, this, that, 固有名詞など 一人または一つをさす言葉
are	you(あなた、あなたたち)、we, they, these, those, pens など 二人、または二つ以上をさす言葉

文章の組立て

英文では 主語「だれが」、述語「どうする」は先に並べていきます。

一番伝えたい部分が前に並んでいく、という語順です。

日本語では「だれが」、「いつ」、「どこで」、「どんなふうに」、「どうする」と

文の前と後ろに分かれています。

一番伝えたい部分が前と後ろにあるのが、日本語の語順なんですね。

いくつか文を作ってみましょう。

「私は10才です。」は、 I am 10.

「彼は10才です。」なら He is 10.

「私たちは10才です。」なら We are 10.

「彼は10才でした。」なら He was 10.

「私たちは10才でした。」なら We were 10.

be動詞の否定文と疑問文

be動詞は助動詞などの力を借りずに、自力で文章を変化させます。

疑問文は be動詞 が 先頭 に来て、

He is 10. ⇒ Is he 10?

否定文は 「ちがうよ」という意味の not を 自分の後ろにつけて、

He is not 10. または is not を短縮し、He isn't 10.

追加: be動詞は「～に、～を」に続く言葉(目的語)を取りません。